

＜平成 26 年度＞

学校教育部の運営方針

教職員課

児童生徒支援室

学務課

教育推進室教育指導課

教育推進室教育研修課

■ 基本情報 ■

＜担当事務＞

- (1) 教職員の定数管理及び学級編制に関すること。
- (2) 生徒指導及び安全指導に関すること。
- (3) 小学校及び中学校への就学に関すること。
- (4) 児童、生徒及び園児の健康に関すること。
- (5) 学校園の教育課程に関すること。
- (6) 教職員の研修に関すること。

＜部の職員数＞H26年4月1日現在

正職員	80名
再任用職員	4名
任期付職員	63名
非常勤職員	78名
合計	225名

＜教育機関の職員を含む＞

※他団体等への派遣職員、臨時職員を除く

■ 基本方針 ■

枚方市教育委員会は、「人とふれあい とともに学び 豊かな心を育む」～子どもたちの健やかな成長と学びを支え、社会を担う人材を育てる～を教育目標としています。（「枚方市教育委員会 各部の運営方針」参照）

その中で学校教育部は、学校園の教育課程、教職員の定数管理や学級編制、教職員の研修、生徒指導や安全指導、就学や子どもたちの健康などの事務を担い、「笑顔あふれる学校園」、「学び喜びのある学校園」、「信頼される学校園」を基本目標としています。

平成 26 年度は、「小中連携の推進・充実」、「学校園運営体制の整備・充実」、「学習指導と心の教育の充実」、「生徒指導の充実」、「支援教育の充実」、「教職員研修の充実」、「幼稚園教育の充実」を重点施策とし、質の高い教育環境づくりを推進します。

I 重点施策・事業

◆小中連携の推進・充実

知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」をはぐくむため、これまでの取り組みの成果である「学習規律の確立」を基盤として、各中学校区における小学校と中学校の連携を軸として、

課題等を踏まえたテーマを設定し、義務教育9年間を見据えたカリキュラム（指導計画）の実践に取り組みます。

◆学校園運営体制の整備・充実

小学校第3学年までを対象に支援学級在籍児童も含んで35人以下とする市独自の少人数学級編制を実施し、学級数が増える学校に市費で教員を配置します。少人数学級編制によるきめ細かな指導を通して、支援学級在籍児童との交流や共同学習の充実を図り、児童一人ひとりの「確かな学力」及び「豊かな心」を育成し、「生きる力」をはぐくみます。



◆学習指導と心の教育の充実

①研究授業や教材・教具等の充実を通して、教職員の指導力向上に努めるとともに、学校の実態に応じて作成した特色ある学力向上プラ

ンに基づき、児童・生徒の学力向上に取り組めます。

また、全小中学校に配備しているパソコンの自学自習力支援システムを活用して、児童・生徒の自ら学ぼうとする力の育成と基礎・基本の定着を図ります。

さらに、家庭における学習習慣が身につくよう、家庭教育の重要性について発信していきます。

②全中学校に各校1名の外国人英語教育指導助手（NET）を、全小学校に英語が堪能な日本人の英語教育指導助手（JTE）を配置し、学校の取り組みを支援することにより、「読む」「書く」「聞く」「話す」力をバランスよく育む授業の実践とともに、児童・生徒の英語学習への意欲を高める取り組みの充実をめざします。

③小学生陸上競技大会、小学生駅伝競走大会、小学校合同音楽会、漢字をテーマに思いを伝える作文コンクール、菊のひらかた・菊咲かそう体験事業など、子どもたちがさまざまな体験を通して豊かな心を育む事業を実施します。



④新たに、市内3中学校区を実践研究校区として指定し、中学校に学校司書を配置します。司書教諭、学校司書、学校図書館ボランティアが協力し、また、市立図書館とも連携しながら学校図書館が「読書好きの子どもたちを育てる役割」、「子どもたちの学習活動を支援する場としての役割」を充実し、家庭においても自発的に読書に親しませ、子どもたちの言語力を育みます。

また、図書購入費予算額を前年度より20%増額し、蔵書の充実を図っていきます。

⑤中核市移行を記念して、教育文化都市として枚方市が取り組んでいる「教育」を広く市民に情報発信するとともに、教職員研修の一環

として、「表現する力」や「伝え合う力」に重点を置いた教育フォーラムを開催します。

◆生徒指導の充実

①全中学校に市独自の教員や非常勤講師等を配置することで、生徒指導主事が、いじめや暴力行為などの未然防止や様々な問題行動に対する迅速かつ適切な対応に専念できるよう生徒指導体制の充実を図ります。

また、「枚方市いじめ防止基本方針」を策定するとともに、新たに児童生徒支援室及び生徒指導担当を設置し、学校と連携したいじめ・体罰の防止に取り組めます。

②いじめや不登校等諸問題の早期発見・早期対応を行うために、総合電話窓口としての「子どもの笑顔を守るコール」による児童・生徒・保護者等からの相談体制のさらなる充実を図ります。

③教育文化センター内にある適応指導教室（ルポ）において、不登校の児童・生徒に対し、家庭と学校の間隔的な存在として、多様な活動を通じて学校復帰に向けた支援・指導を行います。

④人権問題に関する正しい知識の習得及び課題解決に取り組むとともに、豊かな人権感覚と実践力を持ち、自ら考え行動できる人間の育成をめざした人権教育の推進を図ります。

⑤「火災」「風水害」「地震」等を想定した避難訓練の実施、地域住民と共に避難所生活を想定した体験を行う学校防災キャンプ事業の実施等、子どもたちが自らの危険を予測し、回避する能力を高めることができる防災教育を行います。また、枚方市立学校園から子どもの安全に関わる情報や緊急連絡等を、保護者へ電子メールで、迅速に情報配信するシステムを導入します。

◆支援教育の充実

発達障害等があり教育的支援を必要とする児童・生徒に対する個に応じた指導の一層の充実を図るために、特別支援教育士・臨床心理士等の専門家を学校に派遣し、児童・生徒への指導について教職員に直接指導・助言を行います。

また、各学校の支援教育コーディネーター担

当教諭が配慮を要する児童・生徒の状況把握や支援等を行うための時間を確保し、支援教育の充実を図ります。

◆教職員研修の充実

中核市移行に伴う新たな権限として本市で初任者研修・10年経験者研修等を実施し、教職員の資質向上に取り組みます。特に「新規採用から5年間の育成プログラム」「管理職研修の充実」「児童生徒の国語力の向上」の3点を研修の重点として、経験・職務に応じた基本研修や教科等の専門性を高める専門研修を実施します。

◆幼稚園教育の充実

国の子ども・子育て支援新制度を見据え、幼稚園に関わる制度の課題を整理するとともに、枚方市立幼稚園の運営・配置計画に基づき、枚方市立幼稚園の新たな取り組みと充実策を進めていきます。

また、「枚方市子ども・子育て支援事業計画」の策定過程を踏まえ、新制度における公立幼稚園のあり方について検討を行います。

II 行政改革・業務改善

<行政改革実施プラン（前期）の改革課題>

改革課題	取り組み内容・目標
2. まちづくりの学習機会の充実	小学校第3・4学年の社会見学について、関連機関・施設と連携し、学習プログラムを作成する。
11. 体験学習の充実	社会福祉施設の訪問・交流活動などに取り組む。
13. 防災教育の充実・防災キャンプの推進	子どもたちが参画する防災訓練「学校防災キャンプ」を推進する。
39. 業務委託の拡大	交通専従員・交通指導員の業務内容の整理、配置基準の見直しを行い、業務委託の拡大を進める。

<業務改善のテーマ・目標>

テーマ	取り組み内容・目標
満足度の高い窓口・電話対応	効果的な部内研修を実施し、今後も丁寧な対応に努める。

III 予算編成・執行

◆本市独自の取り組みである、生徒指導体制や少人数編制を充実するために、市費で教員を配置するために2億3537万1000円の予算を計上しています。

◆学校図書館の有効活用に向けた研究実践を行うために、市内3中学校区への学校司書配置等の経費として616万4000円の予算を計上しています。

◆課題を抱えた子どもを支援するため、不登校支援協力員、法律相談員、学校問題サポート員、帰国児童等に対する教育指導員など多様な人材活用の経費として、2371万9000円の予算を計上しています。

◆自学自習力支援システムのコンテンツ契約方法や管理コストの見直しにより約280万円の経費を削減した上で、1451万円の予算を計上しています。

IV 組織運営・人材育成

◆学校教育部では、質の高い教育環境づくりのため、目標の共有化を図り、部内の緊密な連携による効果的な組織運営に努めます。

◆平成26年度の中核市移行に伴い、本市独自の教職員研修計画に基づき、「教育公務員としての規範意識」「学年経営や学校経営などに必要なマネジメント力」「教科等の専門性や多様な教育課題に対応できる授業力」を身に付けた教職員を育成し、資質・能力の向上を図ります。

- ◆学校教育部の機構改革を行い、教育相談課を児童生徒支援室に改編し、学校と教育委員会の連携をさらに深め、多様化・複雑化する教育の課題に対して、今後も適切に対応していきます。

V 広報・情報発信

◆ホームページ・情報発信の充実

学校園や教育委員会主催の特色ある取り組みをホームページに掲載するなど、「教育文化都市ひらかた」を広く情報発信します。

また、各学校園が日常の教育活動などをホームページなどに掲載するなど、保護者、市民への情報発信に努めます。